

第4章 計画推進のための取組

基本方針1 子どもが読書に親しむ機会の拡充

方策1 発達段階に応じた読書活動の推進

子どもの発達段階に応じた目標や方向性を家庭や関係機関が共有し、個々の状況に寄り添った適切な読書支援を推進します。

発達段階ごとの特徴（p26図）が指摘されていることを踏まえ、家庭・地域・学校等において多様かつ切れ目ない取組を行うことで、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣の形成を進めます。

① 乳幼児期

乳幼児期に「耳で親しむ読書」の読み聞かせを行うことは、子どもが言葉を覚え、コミュニケーション能力が育つきっかけとなります。また、本にふれる喜びや読書の楽しさを伝え、親子の信頼関係を築き、子どもの心を成長させるだけでなく、その後の自主的な読書活動の原動力ともなります。

そのため、多くの絵本と出会い、読書を好きになり、身近に感じることができるようにする取組や家庭への周知・啓発を推進します。

② 小学校期

低学年では「文字で親しむ読書」が始まり、語彙が増え、文字で書かれた場面や情景を想像できるようになります。中学年では、読む速度が上がり、多くの本を読むようになります。また、人の心や内面にも注意が向き、複雑な内容が理解できるようになります。高学年では、多様な分野の本に接することで、社会への視野を広げ、自主性・自発性が育まれるようになります。

学校や図書館、子育て支援施設が連携して、読む本の幅を段階的に広げながら、読み終えることでの達成感や興味・関心の広がりを感じられる読書機会をつくります。また、学校の授業や学習において、本や事典・図鑑等を活用する方法や学校図書館という情報環境の活用方法を学ぶ機会をつくり、本が役に立つという実感を得られるような取組を進めます。家読の周知にも取り組みます。

③ 中学校・高校期

思春期に入り、自らの生き方を模索し始め、急激に成長していく時期です。読書を生活に役立て、自己の向上につなげることが大切です。受験勉強や部活動等で多忙な中で読書を楽しむゆとりも必要です。

この世代の感性やニーズを反映した蔵書の充実を図るとともに、数多く本を読むことと深い読書を両立させることを目指します。また、友達同士で本をすすめ合うなど、読書と子ども同士のコミュニケーションを組み合わせた機会をつくります。また、中学生・高校生が日常的に利用する情報機器等の活用についても検討し、読書推進を図ります。

■「10分読書」運動

子どもだけでなく大人も一緒に市全体で子どもの読書活動の推進に取り組んでいくため、読書のきっかけ作りや社会への啓発として、家庭・地域・学校が連携し、新たに「10分読書」運動を行います。

「10分読書」運動は「1日の中で、いつでも、どこでも、誰とでも、どんな形でもよいので、1日合計10分本に親しもう、10分読書の時間を持とう」という働きかけを市全体で行う運動です。「1日合計10分」は、読書に苦手意識のある子どもや忙しい中学生・高校生も、数分間を積み上げることで達成することができます。毎日、短い時間であっても子どもが本に接し、日常生活の一部となることで、読書習慣の確立を図ります。

読書活動は発達段階に応じて変わっていくものですが、「本に親しんだ時間」はどの段階でも共通の目安となります。今まで「子どもが本とどれだけ向き合ったか」は「読んだ冊数」で計っていましたが、今後は、学校での調査やICTを活用したアンケート等を定期的に行い、「本に親しんだ時間」でも計っていきます。

発達段階に応じた取組と「ふくしま読書の日」制定・10分読書運動の推進					
	乳幼児期	小学校期	中学校期	高校期	
発達段階と読書	<ul style="list-style-type: none"> ・周りからの言葉かけや会話により言葉を獲得する ・読み聞かせなどにより絵本や物語に興味を持つ ・4～6歳は読み聞かせの黄金期 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で本を読めるようになる ・はやく読めるようになり、多くの本を読むようになる ・読書の幅が広がり始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・多読の傾向が減少する ・共感や感動ができる本を選んで読む ・読書を将来に役立てようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や資料の種類に応じて適切に読むことができるようになる ・知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができるようになる 	
	支援を必要とする子ども				
10分読書活動の提唱	楽しむ読書		調べる読書		考える読書
	本と出会う 10分読書 絵本や物語を読んでもらい、興味を示すようになる読書		本となかよし 10分読書 多くの本を読み、読書の幅を広げたりする読書		本でひろがる 10分読書 内容に共感・感動したり、将来を考えたりする読書
					本で深まる 10分読書 知的興味に応じた一層幅広い読書
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものいるすべての家庭に対し、本に触れるきっかけを作る ・家庭における読書環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における読書環境の整備 ・子どもの読書習慣の確立 ・情報ツールとしての本の使い方を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士で本をすすめあうなど、子どもが主体となる読書活動の推進 ・情報ツールとして本を使いこなせるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな読書に応える情報発信 	
具体的な取組	ふくしま読書の日（新）、10分読書運動（新）				
	ブックスタート事業（4か月児）	ブックステップ事業（新）（3歳6か月児）	学校支援図書セット貸出事業 学校司書の配置・活用		
			全校一斉の読書活動の推進		
			読書オリンピックふくしまっ子大会		
	幼稚園・保育所等での読み聞かせ		授業での図書館活用		
	赤ちゃんタイム（新）（0～6歳児）		1日図書館員（新）（中・高学年）		
	おはなし会の実施（0～3歳児／4歳～小学生）		ビブリオバトル事業		
	赤ちゃん絵本リスト（0～3歳児）	4・5歳児向けブックリスト	小1向けブックリスト	中学年向け・高学年向けブックリスト（新）	中1向けブックリスト
幼児・児童向け広報紙		中高生向け広報紙			

方策2 家庭における読書活動の推進

家庭は子どもにとって最も身近な生活の場であり、人が社会生活を営む上での基本的な能力・習慣を育む場です。

家庭では、読み聞かせや家族で一緒に読書をする時間を設けたり、図書館や書店に行き本と出会うなど、工夫して読書に親しむきっかけを作り、読書環境を整えることが重要です。また、保護者の読書に対する態度や家庭内での子どもとのかかわりが、子どもの読書習慣の形成に大きく影響します。そのため、読書に対する興味や関心を引き出すよう子どもに働きかけること、さらには、子どもにとって最も身近な存在である保護者自身が、積極的に読書に親しむ姿を見せることも望まれます。

地域・学校がそれぞれの立場から家庭に働きかけ、読書活動と読書環境づくりに関する取組を行います。また、子どもの読書活動に関する情報提供を積極的に行い、家庭での読書の機会の創出につなげます。

主な取組	概要	連携・関係課	対象
家読の実施 〔10分読書運動〕	家庭において読み聞かせや読書、本について話し合う等、本に親しむ時間を設ける	図書館 生涯学習課 学校 幼稚園・保育課	全

※対象 全：すべての子ども、乳：乳児、幼：幼児、小：小学生、中：中学生、高：高校生



おはなし会

方策3 地域における読書活動の推進

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの身近なところへ本と親しむことができる環境をつくることが重要です。このため、図書館が地域における子どもの読書活動推進の中心として学習センターや子育て支援施設と連携し、子どもが本と出会い、親しみ、楽しむことができ、気軽に相談できる機会の充実を図ります。

① 図書館における取組

図書館は、子どもが多様な本と出会い、自ら本を手に取り読みたい本を自由に選べる場所です。読書の楽しみを通して豊かな人間性を育む場であり、さまざまな知識を得る学びの場でもあります。

主な取組	概要	連携・関係課	対象
おはなし会の開催 〔10分読書運動〕	0～3歳、4歳～小学生を対象としたおはなし会を定期的に行う		乳 幼 小
ブックスタート事業 の実施	4か月児と保護者を対象に絵本を配布し、読み聞かせと絵本のアドバイスを行う	こども家庭課	乳
ブックステップ事業 の実施【新規】	3歳児と保護者を対象に絵本を配布し、読み聞かせと絵本のアドバイスを行う	こども家庭課 学習センター	幼
学校支援図書セット 事業	小学校・中学校向けに調べ学習や朝の読書に使える本のセットを用意し、貸出する	学校	小 中
1日図書館員事業 【新規】	小学校中・高学年を対象に、図書館の仕事を体験することで、図書館や本への関心を深める		小
ビブリオバトルの 開催	中学生・高校生を対象としたビブリオバトルを開催し、中学生・高校生同士で本の紹介をする機会を設ける	学校教育課	中 高
ブックリストの 作成・提供	発達段階に応じた各種ブックリストを作成・提供する (0歳、2歳、3歳以上、4・5歳、 小学1年、中学年、高学年、中学1年)	学習センター こども家庭課 幼稚園・保育課 学校教育課	乳 幼 小 中
移動図書館しのぶ号 の運行	遠隔地の小学校を中心に移動図書館しのぶ号を運行する	学校	全
団体への貸出	学級文庫や調べ学習等に使う資料や読み聞かせ活動等に必要な資料を、子育て支援施設・学校・ボランティア団体等に貸出する	こども政策課 学校	全

② 学習センター・こむこむ館における取組

学習センターは地域住民にとって生活圏にある身近な社会教育施設であり、家庭への働きかけが期待されます。その特徴を生かし、家庭教育に関する講座や図書室の運営を通じて、読書活動の啓発や子どもが本に親しむ機会の提供に努めます。

主な取組	概要	取組主体	対象
おはなし会の開催 〔10分読書運動〕	0～3歳、4歳～小学生を対象としたおはなし会を定期的に行う	学習センター	乳 幼 小
団体への貸出	学級文庫や調べ学習等に使う資料や読み聞かせ活動等に必要資料を、子育て支援施設・学校・ボランティア団体等に貸出する	学習センター	全
家庭教育・児童対象の講座等での読み聞かせ・本の紹介等	学習センターの各種事業を活用し、子どもが本に親しむ機会の充実を図る	学習センター	乳 幼 小
こむこむ館における特色ある取組	図書館と連携し、プラネタリウムを活用した朗読会など、こむこむ館の設備を活用した事業を実施する	こむこむ館	全

③ 子育て支援施設における取組

主な取組	概要	取組主体	対象
読み聞かせや本に親しむ機会の提供 〔10分読書運動〕	地域の幼児・児童を対象に、ボランティアを活用した読み聞かせを定期的に行う	児童センター	幼 小
	未就学児とその保護者を対象として、本に親しむ機会を提供する	地域子育て支援センター	乳 幼
図書の貸出 〔10分読書運動〕	家読や家庭での読み聞かせ等を促進するため図書の貸出を行う	児童センター 地域子育て支援センター	乳 小

方策4 学校等における読書活動の推進

学校等は、子どもが生活の中で多くの時間を過ごし、家庭以外で日常的に本にふれる場所として、読書活動に大きな影響を与えます。学校等と図書館が連携を深め、本を学びの情報ツールとして活用することを身に付けるとともに、子どもが読書の喜び、楽しさを知り、豊かな心を育む読書活動を推進します。また、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の充実を目指します。

① 保育所・幼稚園・認定こども園における取組

主な取組	概要	取組主体	対象
保育時間における読み聞かせ等の実施 〔10分読書運動〕	本に親しむ機会の充実を図るため、保育時間に絵本や紙芝居等の読み聞かせを行う	保育所 幼稚園 認定こども園	乳 幼

② 小・中学校における取組

主な取組	概要	取組主体	対象
全校一斉の読書活動の継続 〔10分読書運動〕	読書の時間を教育活動の中に継続して位置付ける	学校教育課 学校	小 中
「読書オリンピックふくしまっ子大会」の実施	市内の全小学生・中学生を対象に、読んだ本の冊数を競う「読書マラソン」等の多様な読書活動を種目として設定し、表彰することを通し、読書に親しむ子どもを育成する		
読み聞かせ・本の紹介等の実施	読み聞かせや本の紹介等を実施し、本に親しむ機会の充実を図る		
児童・生徒の読書意欲を喚起する多様な読書活動の実施	図書委員による本の紹介やビブリオバトルなどの児童・生徒が主体となる取組や、多読賞など、読書意欲を喚起する多様な読書活動を実施する		
幼保小中連携による読み聞かせ等の実施 〔10分読書運動〕	小学生・中学生による読み聞かせ、園同士の交流時に行う読み聞かせ、学校ボランティアが園に出向いての読み聞かせ等を実施する	保育所 幼稚園 認定こども園 学校教育課 学校	乳 幼 小 中

方策5 支援を必要とする子どもの読書活動の推進

障がいを持つ子どもや日本語を母語としない子どもなど、支援を必要とする子どもが読書に親しむことができるよう、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた読書活動を推進します。図書館・地域・学校・ボランティア・関係機関等がその機能や技術をいかし、連携・協力しながら、支援を必要とする子どもの状態に応じた読書活動の支援を推進します。

主な取組	概要	取組主体	対象
読み聞かせや本に親しむ機会の提供 〔10分読書運動〕	ボランティア・関係機関等との連携・協力による対面朗読やおはなし会の実施、図書館見学の受入などを行う	図書館	全
	子どもとその保護者を対象に、本に親しむ機会を提供する	こども発達支援センター	全
バリアフリー資料・多言語資料等の収集・整備	手でさわる絵本 ²² ・点字資料・LLブック ²³ ・大活字資料・オーディオブック・デージー図書・音声読み上げ対応の電子書籍等のバリアフリー資料や多言語資料の整備・充実に努める	図書館 学校教育課	全
関係者の資質向上	研修への参加、情報収集などを行い、関係者の資質向上に努める	図書館 学校教育課 教育研修課	全

²² 手でさわる絵本：図書ボランティアが製作した、布製の絵本。視覚障がい者も触感で楽しめるよう、挿し絵を布等で立体的に、また墨字を点字で表現しています。

²³ LLブック：文字を読んだり本の内容を理解することが難しい人のために、やさしい文章、写真やイラスト、ピクトグラムなどを用いて読みやすく工夫された本です。

基本方針2 子どもの読書活動を支える環境の整備と充実

方策1 図書館等の整備・充実

図書館や学習センターが、子どもに身近で利用しやすい場所となるためには、探しやすい配架と親しみやすい雰囲気づくり、広範な資料の整備・充実が必要です。特に児童書・ヤングアダルト向け資料の整備・充実を図るとともに、支援を必要とする子どものためのバリアフリー資料等を収集します。また、図書館司書の研修への参加や学校司書を対象とした研修の実施など、指導者・有資格者の資質向上に努めます。

主な取組	概要	取組主体
児童書・ヤングアダルト向け資料の整備・充実	新刊児童書の収集、基本書の買替え、幅広い分野のヤングアダルト向け資料の収集を行う	図書館 学習センター
バリアフリー資料・多言語資料等の収集・整備【再掲】	支援を必要とする子どものため、手でさわる絵本・点字絵本・LLブック・大活字本・オーディオブック・デイジー図書・音声読み上げ対応の電子書籍等のバリアフリー資料・多言語資料の整備・充実に努める	図書館 学習センター
児童向け利用案内の作成・提供	子どもにも分かりやすい図書館利用案内を作成・提供する	図書館 学習センター
図書室・図書コーナーの設置と図書の充実	子どもが自由に本を手にとれる図書室・図書コーナーを設置し、図書の充実に努める	児童センター 放課後児童クラブ 地域子育て支援センター
「赤ちゃんタイム」の実施【新規】	子どもの声などを気にしなくていい時間帯を設定し、子育て世代の利用を促進する	図書館 学習センター
子どもの読書スペースの充実	子どもの興味・関心を引く図書の展示を行う	図書館 学習センター
ホームページの機能向上	子どもが使いやすいホームページの機能充実に努める	図書館
ICTの活用	電子書籍の導入や動画コンテンツの活用等についてすすめる	図書館
研修の充実	図書館司書・学校司書など子どもの読書活動を支える関係者の資質向上に努める	図書館 学習センター
学校・関係機関との連携	学校・福島地区学校図書館研究会との連携による情報共有や、学校訪問等により学校図書館の活用の仕方や整備などの助言を行う	図書館

方策2 学校図書館等の整備・充実

学校図書館が子どもの豊かな読書活動や主体的な学習活動を支えるためには、魅力ある図書を揃え、学習に必要な本や読み物を身近に手に取ることができる環境が重要です。

このため、教員・学校司書が協力し、蔵書の充実や図書の分類・整理の徹底を図るとともに、読書への興味・関心を高めるため、新刊本やおすすめの本を紹介するコーナーを設置するなど、読書・学びの環境の充実に努めます。

① 保育所・幼稚園・認定こども園における取組

主な取組	概要	取組主体
図書室・図書コーナーの設置と図書の充実	子どもが自由に本を手にとれる図書室・図書コーナーを設置し、図書の充実に努める	保育所 幼稚園
図書の貸出の実施〔10分読書運動〕	家庭での読み聞かせ等を促進するため図書の貸出を行う	認定こども園

② 小・中学校における取組

主な取組	概要	取組主体
学校図書館蔵書の充実	児童・生徒が調べ学習や読書を行えるよう、学校図書館の蔵書の充実に努める	学校教育課 学校
図書の分類・整理の徹底	児童・生徒が本や資料を容易に探すことができるよう日本十進分類法による図書の分類・整理の徹底に努める	
魅力ある学校図書館づくり	新刊本等、児童・生徒の興味や関心を引く図書の展示コーナーの設置などを行う	
I C Tの活用	児童・生徒用に整備される学習者端末（タブレット）について、本の情報を探したり、読書の記録をつけたり、読んだ本についての感想をまとめて発信したりするなど、読書ツールとしての活用の仕方についてすすめる	
図書館・関係機関との連携	図書館・関係機関と連携し、学校図書館運営の課題の把握・改善に努め、学校図書館の活用・整備を行う	

基本方針3 子どもの読書活動への理解促進と人材育成

方策1 推進のための普及・啓発

子どもだけでなく大人も一緒に、市全体で子どもの読書活動の推進に取り組んでいくため、新たに「ふくしま読書の日」を制定し、子どもの読書活動の意義や重要性について啓発を図ります。

また、図書館の事業や新着図書等の情報を広報紙やホームページ等に掲載し周知を図るとともに、「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等の機会をとらえ、各種広報媒体により子どもの読書活動に関する取組の普及啓発に努めます。

主な取組	概要	取組主体
「子ども読書の日」等の趣旨に基づく事業の実施	「子ども読書の日（4月23日）」等の機会に理解を深める各種事業を実施する	図書館
広報紙・ホームページ等による周知・啓発	市政だより・市ホームページ・SNS等、さまざまな媒体による情報提供と周知・啓発に努める	図書館
職場体験やインターンの受入	中学生ドリームアップ事業における職場体験 ²⁴ や大学生のインターンシップを受入する	図書館 学習センター
「こんにちは赤ちゃん事業」時の啓発	「こんにちは赤ちゃん訪問」時に、絵本についての資料を配布し普及・啓発を図る	健康推進課
図書だよりやブックリスト、保護者向け広報紙等による啓発	図書館の広報紙や図書だより、施設内へのポスター掲示、各所・園のお便り等を通じ、保護者へ読書活動の重要性を啓発する	保育所 幼稚園 認定こども園 学校
PTA等との連携による取組	各学校におけるメディアコントロール ²⁵ への取組と併せて家庭での読書習慣の定着を啓発する	学校

²⁴ 中学生ドリームアップ事業における職場体験：福島市教育委員会の事業で、中学2年生が地域の商店・事業所などで5日間の体験活動をして社会のしくみを学ぶというものです。

²⁵ メディアコントロール：テレビやスマートフォン、パソコンなどのメディアを使用しない時間を設定し、家族で実践する取り組みです。

■「ふくしま読書の日」

市全体で読書や本への関心を高めるために、毎月24日を「ふくしま読書の日」に制定し各種取組を実施します。取組実施には行政だけでなく、書店等の民間事業者や読書ボランティア等とも共創し、広く市民に定着するよう努めます。また、学校での調査やICTを活用したアンケート等を実施し継続的に評価します。

主な取組	概要	取組主体
「ふくしま読書の日」の制定・広報・啓発 【新規】	毎月24日を「ふくしま読書の日」とし、広報に努め、各種取組を実施し、市全体で読書の機運を盛り上げる	図書館

方策2 読書活動を支える人材の育成と連携体制の強化

地域全体で子どもの読書活動の推進を図るため、関わる関係機関、各種団体等が情報を共有し、互いに連携協力していく体制を強化し、地域の人材育成も含めた子どもの読書活動に関わる方々のネットワークの構築に努めます。

主な取組	概要	取組主体
保護者や子どもの読書に携わる人を対象とした講座等の開催	読み聞かせや絵本、わらべうた、手作り人形講座等の開催による子どもの読書活動の啓発と人材育成を図る	図書館
読書ボランティア等の学習機会・情報交換の推進	読書ボランティア養成講座の開催やボランティア向け広報紙の発行など、子どもの読書活動を支える人材の育成と情報交換の場を提供し、円滑な活動を支援する	図書館
関係団体との連携	地域の読書推進団体や青少年育成団体等との連携による取組を推進する	図書館 学校
関係機関との連携	県立図書館や県内の図書館関係機関との連携と、全国的な視野に立った情報収集・提供の推進に努める	図書館

指 標

指標1 子ども一人当たりの児童書貸出冊数

図書館および学習センター図書室における児童書の貸し出し冊数を当該年度の子どもの人口※で除した値で、子どもの図書館サービスの利用状況をはかる指標です。

現状値（令和元年度）	目標値（令和7年度）	目標値の根拠
11.6冊	13.0冊	現状値の10%増

※子どもの人口：14歳以下の推計人口

指標2 小中学生の1か月の平均読書冊数

「読書に関する調査」の福島市調査分における小中学生の1か月の平均読書冊数から、読書経験の練度をはかる指標です。

区 分	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)	目標値の根拠
小学生	10.2冊	13.0冊	現状値を基に、さらに上回る値を目指します
中学生	2.5冊	3.0冊	

指標3 本を1か月に1冊以上読んだ児童・生徒の割合

「読書に関する調査」の福島市調査分における小中学生の1か月に1冊以上本を読んだ児童・生徒の割合から、読書習慣の定着度をはかる指標です。

区 分	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)	目標値の根拠
小学生	97.5%	100.0%	現状値を基に、さらに上回る値を目指します
中学生	79.0%	87.5%	令和元年度全国水準

指標4 読書が好きな児童・生徒の割合

「全国学力・学習状況調査」の福島市調査分における読書が好きな児童・生徒の割合から、読書への関心の高さをはかる指標です。

区 分	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)	目標値の根拠
小学生	73.2%	80.0%	現状値を基に、さらに上回る値を目指します
中学生	65.6%	75.0%	